

小野町の中学生海外派遣事業「中学生の翼」に参加した団員・指導者のみなさんが7月31日に無事帰国しました。アメリカ合衆国ニュージャージー州グレンロック町での10日間にわたるホームステイで、英会話の実践やアメリカの中学生との交流など、たくさんの貴重な体験と思い出を作りました。

帰国報告

団長（公民館長）先崎幸雄

「第14回中学生の翼」は、団員12名（男子生徒4名女子生徒8名）引率者3名で、去る7月22日から31日までの10日間、当町と友好の深いアメリカ合衆国ニュージャージー州グレンロック町でホームステイを行ないました。

この事業は、国際化時代に対応するため、中学生を海外に派遣することにより、体験を通して広い心、自由・自立と公共の精神を培う目的で実施しています。今年は、事業内容を見直し、従来のキャンプステイを除きホームステイを通して研修目的が達成できるよう計画したものです。

7月22日 町長・教育長・保護者他関係者の見送りを受けて団員たちは、大きな期待感と不安を胸に定刻どおり出発しました。

（これよりアメリカ時間）

7月22日 ニュージャージー州ニューアーク国際空港に無事到着、飛行時間13時間弱の長旅、厳しい入国審査にもかかわらず団員たちは、異国の感触を全身

で感じていたようです。一行は町の歓迎会の会場へバスで移動、

車中から街並・風景に皆驚きの様子、中でも日本車の多いことに驚いていました。ホストファミリーとの歓迎会は、町の集会所で全て手作りでの交流パーティーです。キューレン町長・議会議員・教育委員さんの歓迎を受け、ホストファミリーと対面式交流パーティーが夜遅くまで行なわれました。（暗くなるのが午後9時頃です）手作りパーティーのせいか、一見質素のように見えるがとてもあたたかく感じ、団員たちも感激し家族に溶け込んでいました。いよいよ、ホームステイの始まりです。

7月23日・24日 ホストファミリーと自由行動。それぞれ家族とショッピングやウォータープールで楽しい時間を過ごしました。

7月25日 今にも雨が降りそうなかの中、総勢40名でビーチポイントプレセント海水浴場に到着。車で約2時間、到着時は絶好の海水浴日和。こちらの海水浴場は有料です。全員が腕にリングをはめ海水浴を楽しみました。

7月26日 40度を越す猛暑、町の公共施設の見学です。新しく建て替えられた図書館では、夏休み期間子どもを対象にテーマに沿って参加できるサマリーディング・クラブの説明を受けとても参考になりました。

役場では、町長・議長を初め職員の方々の歓迎を受け、議場において、特別に模擬議会を開き団員が議員に扮し真剣に取り組んでいました。

7月27日 連日続く猛暑の中、ニューヨーク市内見学です。メトロポリタン美術館では、日本人ガイドの説明で館内の著名な場所を見学しました。スケールの大きさにビックリ。中でも、ゴッホの自画像が印象的でした。セントラルパークで昼食の予定であったが猛暑のため車中の昼食会。国際連合本部では、更に厳しいセキュリティチェックを受け、日本人ガイドで見学、テレビでなじみの安全保障会議室では感激の様子。ダラスBBQでの夕食のボリュームの大きさはみんなビックリ！ミュージカル「Drumstick」は、のりのよい太鼓演奏で会場とステージが一体となり、アフリカの

リズムに酔いしれてしまいました。帰るときみんなの手のひらが赤くなるほどでした。夜中ホームステイ宅に着きました。

7月28日 団員とホストファミリーの子ども二人での「自由の女神」見学、久々に日本語だけが車中を飛び交い、懐かしく感じました。自由の女神を背景に思い思いのポーズで記念写真に大忙し。夕方、町民プールで書道「折り紙」の教室を開き、子供達に指導しました。ホストファミリーとの送別会では、感謝の気持ちを御礼の手紙と花に託して団員からホストファミリーへ贈りました。団員全員で歌を披露し、会が盛り上がりました。お別れを惜しむように、それぞれの家族と抱き合い「また会おう」と言いながら送別会を閉じました。

7月29日 昨夜の感動が残る中、ホームセンターの一室で思い出のアルバム作りに挑戦。思い思いのオリジナルアルバムが完成し、早速写真を貼り満足げに見せ合っていました。夕刻荷物を整理し、ニューアーク空港隣のホテルに到着。

7月30日 2班に別れホテルのシャトルバスでニューアーク国際空港到着、空港が広くターミナルを探すのに四苦八苦、我が班も別々となり、最悪の状況、到着地点に戻り探し始めたところ、同じく到着地点に戻った仲間と再会、これで日本へ帰れる」と一安心。搭乗手続きまた厳しい出国審査をクリアし定刻空港を出発（帰りは14時間弱のフライト）

7月31日 無事成田空港に到着しバスで帰町。教育長・教育課長・校長・保護者の出迎かえを受け解散。

今回の研修の中で、アメリカの自由と家族の絆・子どもものしつけを実感するとともに日本文化の素晴らしさを体験できました。

終わりに、クリスティン夫妻・グレンロック町の皆さんに深く感謝申し上げます。

